

平成24年度 学校経営計画に対する中間評価報告

石川県立翠星高等学校

No.1

重点目標	具体的取組	主担当	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定	分析（成果と課題および後期の扱い（改善策））
1	地域の環境問題に積極的に関わる意欲と態度を育成する。	保健課 特活課 各年次 各分掌 各コース	【努力指標】 校内の環境・美化に積極的に取り組んでいるか	校内の環境・美化に積極的に取り組んでいると答えた生徒が A 90%以上 B 70%以上 C 50%以上 D 50%未満	C	前年は71%、今年は67%であった。 毎月のマナー環境美化週間で、美化委員を中心に校内の環境美化に取り組んでいるが後期はこの運動をさらにすすめ生徒の美化意識の向上を図りたい。
	ふるさと石川の「里山里海保全」の大切さについて理解を深める。	全職員 各年次 各学科 各研究会	【満足度指標】 ふるさと石川の「里山里海保全」の大切さを	里山里海保全の大切さが理解できた生徒の割合は A 90%以上 B 70%以上 C 50%以上 D 50%未満	C	前年は69%、今年は52%であった。 里山里海の保全活動は現在3つの研究会が行っている。これらの活動について全校生徒に啓蒙活動を行い、里山里海の大切さを理解させるとともに専門家による講演会などを企画し多くの生徒が里山里海の保全活動に参加する体制づくりを行いたい。
	地域の環境保全のためのボランティア活動への積極的な参加を奨励する。	全職員 各年次 各学科 各研究会 特活課	【成果指標】 地域の環境保全のためのボランティア活動への参加者が増える。	ボランティア活動に参加した生徒の割合は A 50%以上 B 40%以上 C 30%以上 D 30%未満	D	前年は35%、今年は28%であった。 後期には1年次生が全員、通学路清掃を行う予定になっており、また、各部・研究会ごとに通学路清掃を実施する予定である。
2	学習意欲の向上と基礎学力の定着を図るとともに、進路実現に向けてキャリア教育の充実・強化に取り組む。	教務課 各年次 各教科	【成果指標】 朝学習（翠星タイム）に取り組む、基礎学力を身につける。	基礎学力を身につけることができたと思う生徒の割合が A 90%以上 B 70%以上 C 50%以上 D 50%未満	C	前年は73%、今年は68%であった。 毎日の朝学習の継続により生徒は着実に基礎学力を身につけていると思われる。 後期は生徒が基礎学力の定着を実感できる評価方法を工夫したい。
	生徒の授業評価や研究授業、互いの授業参観を通して、授業の工夫・改善を図り、「分かる授業」に積極的に取り組む。	教務課 各教科 全教員	【満足度指標】 分かりやすいと満足している生徒が増えている。	授業が「分かりやすい」と満足している生徒の割合は A 90%以上 B 70%以上 C 50%以上 D 50%未満	B	前年は85%、今年は86%であった。 ただ、保護者アンケートの結果をみると授業が分かりやすいと言っている生徒の割合は前年度86%から今年度は73%に減少しており分かりやすい授業改善に向けて研究授業や互いの授業参観を続けて行っていく予定である。
	3年間を見通し、各年次に応じたキャリア教育を積極的に展開し、全員の進路実現に取り組む。	進学指導課 各年次 各学科	【満足度指標】 各年次のキャリア教育が進路決定の参考になっている。	各年次のキャリア教育が進路の参考になった生徒の割合は A 90%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	B	前年は77%、今年は75%であった。 保護者アンケートにおいても満足している保護者の割合は昨年度の63%から今年度は86%に増加しており、満足度は高い。 ただ、就職に関しては状況は厳しいので指導を徹底し、生徒たちの進路実現を支援したい。

平成24年度 学校経営計画に対する中間評価報告

石川県立翠星高等学校

No.2

重点目標	具体的取組	主担当	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定	分析(成果と課題および後期の扱い(改善策))
3 社会人として必要な生活習慣や規範意識、マナー等の向上に取り組む。	登校指導や授業等を通して挨拶の習慣化に積極的に取り組む。	生徒指導課 全教職員 各年次	【成果指標】 自発的に大きな声で挨拶ができる生徒が増加している。	自発的に大きな声で挨拶ができる生徒の割合は A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	B	今年は78%であった。 授業や登校指導等で全職員が意識して取り組んでいる成果が表れていると思われる。 ただし、保護者のアンケート結果をみるとマナーが向上した生徒の割合は58%とまだ低い。 今後とも粘り強く指導していきたい。
	基本的な生活習慣の確立を目指し、遅刻や欠席者の減少に取り組む。	生徒指導課 全教職員 各年次	【成果指標】 基本的な生活習慣が身につく、遅刻者が減少している。	前年度に比べ、遅刻者の減少割合は A 30%以上 B 20%以上 C 10%以上 D 10%未満	A	遅刻者の数は前年545件、今年は298件で減少割合は45%であった。保護者アンケートでも時間を守ることができると答えた保護者の割合は昨年度の54%から今年度は85%に向上している。 遅刻者に対する指導が効果をあげていると思われる。 今後さらに指導を徹底していきたい。
	登校指導、下校指導等を行い、交通安全指導に取り組む。	生徒指導課 全教職員 各年次	【成果指標】 指導を受けた生徒が減少している。	前年度に比べ、指導を受けた生徒の減少割合は A 30%以上 B 20%以上 C 10%以上 D 10%未満	D	6月末現在で、指導をうけた件数は前年が102件、今年は133件であった。内訳をみると二人乗りが42件と最も多く、以下その他34件、無灯火22件となっている。毎日下校指導を行っているが、今後は生徒の心に訴えるための講話等も計画し交通安全指導に取り組みたい。
4 部活動など課外活動への積極的な参加を促し、活力のある学校づくりに取り組む。	講演会や研修会などを積極的に取り入れ、部や研究会活動の活性化に取り組む。	特活課 農業クラブ 全教職員 各年次	【成果指標】 部や研究会活動などに積極的に活動する生徒が増加している。	部や研究会活動などに積極的に活動する生徒の割合は A 80%以上 B 70%以上 C 50%以上 D 50%未満	C	前年は61%、今年は66%であった。 各部・研究会に実情調査をしてもらい、なかなか積極的に参加できない生徒の指導をしてもらう。 また、生徒を対象とした研修会なども取り入れ、部や研究会活動の活性化を図りたい。
	農業クラブ活動の活性化に取り組み、全国大会への出場者増加に取り組む。	農業クラブ 農業科 各研究会 各コース	【成果指標】 農業クラブ活動が活性化し、全国大会への出場者が増加する。	農業クラブ全国大会への出場者は A 16名以上 B 11名以上 C 6名以上 D 学校枠の5名のみ	C	昨年度の全国大会への出場者は農業鑑定競技5名、平板測量競技3名の合計8名、今年度は農業鑑定競技4名、平板測量競技3名の合計7名であった。特に意見発表部門やプロジェクト発表の部門においては県の代表が意見発表1名、プロジェクト発表2グループで北信越ブロック大会では残念ながら最優秀はゼロであった。農業科を中心に現在対策を考慮中である。